

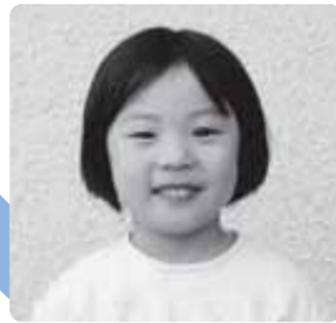
菊陽人 りさーち



やました はやと
山下 颯斗さん
(6歳・北新山)

- 趣味 温泉卵を食べること
- 将来の夢 飛行機のパイロット
- 自慢できること 星と宇宙と星座に詳しいこと
- 今一番やりたいこと 素楽ちゃんといっぱい遊びたい

「菊陽人りさーち」に掲載を希望される人は、はがきに「氏名」「年齢」「住所」「連絡先(昼間)」を明記のうえ〒869-1192菊陽町役場総合政策課「菊陽人りさーち」係までお送りください。
注)掲載対象は、小学生以上で菊陽町に居住している人に限ります。親子、祖父母と孫など2人1組での掲載もできます。掲載が決まりましたら、こちらからご連絡させていただきます。



よこて そら
横手 素楽さん
(6歳・北新山)

- 趣味 算数の勉強
- 将来の夢 お母さんのように話が聞ける人になりたい
- 自慢できること 縄跳びで後ろ跳びができること
- 自分を一言で表すと いつも元気いっぱい

ゆたかな心をはぐくむ 人権のひろば

子どもの目、子どもの声
人権
作文シリーズ
【No.38】

問い合わせ
人権教育・啓発課
☎232-2113

*作者の学年は作文がつづられた昨年度の在籍学年です。
*◇印からの文章は先生のコメントです。

詩

菊陽北小学校

ともだち 二年 かとう れい
友だちは 話を聞いてくれる
友だちは あそんでくれる
友だちは こけたとき たすけてくれる
友だちが ふえてうれしいです
友だち 二年 ふなつき まい
友だちは やさしいな
こまったときは たすけてくれる
友だちは やさしいな
友だちは やさしいな
何があったのって聞いてくれる
やさしいな
やさしいな
◇家族、友だち、先生など身近な人々を題材に、詩を作ってみました。れいさんもまいさんも、困ったときやなやんでいるときに声をかけたり心配してくれたりする友だちのことを詩にしました。



▲友だちいっぱい

学習会の思い出

菊陽中部小学校
六年二組 工藤 正義

ぼくたちは学習会でフィリピンから日本に来られた橋本ロウエナさんのお話を聞きました。
ロウエナさんは日本に初めて来たときに友だちがいなかったそうです。でも、みんなにあいさつをしたら友だちがいっぱいできたそうです。あいさつが大切だと言われました。ぼくたちも、これからあいさつをいっぱいしていこうと思います。
また、ロウエナさんはお父さん、お母さん、先生に感謝しなさいと言われました。ポジティブに積極的に前向きに生きていきなさいと言われました。ロウエナさんの夢は学校の先生になることでした。夢に向かって努力しなさいと言われました。ぼくの夢はサッカーの選手なので、いっぱい練習して努力したいと思います。つぎに学習会で芋掘りをしました。つるがいっぱいあって掘るのがたいへんでした。土で真っ黒になりました。大きい芋や小さい芋がたくさんとれました。楽しかったです。そして、芋料理をしました。芋天を作りました。食べておいしかったです。また、掘った芋をお世話になった人やロウエナさんに配りました。「ありがとう」と言われてうれしかった



▲長崎修学旅行

十二月にクリスマス会をしました。ぼくたちがシールやプレゼントを買いに行きました。いろいろなゲームも考えました。みんなは喜んでくれました。最後の言葉も言いました。ぼくは学習会のクリスマスは最後だったのでみんなが喜んでくれてうれしかったです。
二月には3333段の石段登りがありました。ぼくは友だちと一緒に登りました。その後、昔中部小にいた神田先生と一緒に頂上まで行きました。頂上まで行くことができたのでうれしかったです。行き帰りのバスの中でも友だちとおしゃべりをしたりゲームをしたりして楽しかったです。
ぼくはもうすぐ小学校を卒業します。中学校では勉強と部活をがんばりたいです。中学校の勉強はむずかしいと聞いています。いっぱい勉強してがんばりたいです。そして中学校でもいっぱい友だちを作りたいです。
◇一年間、下級生を引っ張って学習会をがんばりました。いよいよ中学生になります。「差別」「いじめ」を許さない中学生になってください。中学校での活躍を期待します。

きくよう文芸

菊陽句会報

一病を暫し忘れて花の下	坂本百合子	喪心を少し遠ざけ花仰ぐ	吉野 早苗
樹の影とわが影もあり臘月	田中 郁子	固きもの溶けゆく心地花に佇つ	井上久美子
蝶の生る阿蘇外輪はどのぐもり	井 子文	さざ波や昇りつめたる春の月	宮川ユキエ
幸せはこんなことも土筆摘む	財津 早雪	親の手を払ひて走る入学児	日高 妙子
うすずみに桜明りや雨もよひ	原野レイ子	燃え落ちて尚日に縋り路地椿	曾我 育代
春の月掬ひ届けむ古き友	力 幸子	新学期交通指導の通学路	曾我トモ子
花咲きて眼に滲む娘りんご	寺尾千代子	春満月樹上地上に白き花	紫藤 祥子
鯉のぼり天草灘の風孕み	高橋 孝子	黙々と春耕急ぐ漢の意気	村上 朋子
悠久の時を願ひて花見上ぐ	堀川 妙子	我が余命天に託して小句の春	野口 令史
菜の花や三日月さまがついてくる	福田 貴子	うぐいすや終の棲家となる阿蘇か	松橋 強
桜のかおり石の風車がよく回る	佐藤 健	野外ステージ山鳩も来て花揺らす	佐藤 澄世
日に四度食堂行きを日課とし	佐藤 節		

短歌会

頬過ぎる冷たき風に仄かにも春の近づく梅の香りす
葉桜になった途端に夏日なるビニールハウスの中は蒸し風呂
北風に身をさらしつっ老ゆる身に逆らふごとく真向ひてゆく
一斉に緑に萌ゆる阿蘇山の霞見えたり遠き光に
遠き日に憧れし花チューリップ訪う家々の庭に咲きたり
道の辺の黄色に咲ける一群の菜の花に寄り手触れてみたり
もみじ葉は日毎に緑の色冴えて春のひかりの影を落とせり
春の海の青く輝ふ入江には白き帆を張る舟ひとつ見ゆ

今村 貞子
梅田 國雄
河北 幸一
菊川あさみ
佐藤せい子
下田 久子
中村トシエ
山川 カツ